

小学校国語科におけるキャリア教育の実践

- 6年生スピーチ作りに自己の理解能力を高める工夫を取り入れて -

邑楽町立長柄小学校 柴崎 和美

はじめに

本研究は、国語科の学習に相互交流活動や「学びのあしあと」というポートフォリオを取り入れ、自己の理解能力の育成に視点を当てた実践である。これまで、自己の理解能力の育成は、道徳や学級活動で単発的に扱われることが多かったが、本研究では、時数が多く、学習の目標も内容も明確な教科の学習と関連させてキャリア諸能力の育成を図りたいと考えた国語科におけるキャリア教育の一つの実践である。

主題設定の理由

文部科学省では、キャリア教育を「児童生徒一人一人のキャリア発達を支援し、それぞれに相応しいキャリアを形成していくために必要な意欲・態度や能力を育てる教育。端的には児童生徒一人一人の勤労観や職業観を育てる教育」と位置づけている。小学校においては、その発達段階から、職業観・勤労観の育成にこだわらず、その素地となる幅広いキャリア諸能力の育成が期待されている。しかし、実際には、中学校の職場体験のミニチュア版であったり夢を持たせるだけで終わってしまったりするなど偏った学習が行われているため、キャリア諸能力の育成に結びつかない場合が多い。

「キャリア教育推進の手引き」(平成18年11月文部科学省)によると、小学校学習指導要領におけるキャリア教育に関連する主な目標・内容として国語科では「A話すこと・聞くこと」の目標や内容をあげている。また、国語科の目標である「伝え合う力」は、単に言語を通して表現したり理解したりするだけの能力ではなく、そこに互いに尊重し合う人間関係を構築する能力までも含んだものであることから、キャリア教育における「人間関係形成能力」と関連が深いと捉えることができる。

そこで、これらのことから本研究では、6年生国語科「今、わたしは、ぼくは」(光村図書)で、スピーチ作りを行うことを通して「人間関係形成能力」の育成が図れると考えた。そして、スピーチを発表するまでのスピーチ作りの過程に、相互交流活動や「学びのあしあと」などの工夫を取り入れることによって、他者とのかかわりの中で一層自分自身を深く見つめ自己を理解し、他者の考えを理解することもできることから、特に「自己の理解能力」の育成が図れると考える。

このように、本研究は国語の目標や内容をキャリア教育の視点で見直し、自己の理解能力の育成のための工夫を取り入れることで、国語科においてもキャリア教育の実践が可能になると考え、本主題を設定した。

研究のねらい

6年生国語科のスピーチ作りを通して自己の理解能力を高め、国語科におけるキャリア教育の一つのあり方を明らかにする。

研究の概要

1 基本的な考え方

自己の理解能力を高める工夫として、「相互交流活動」と「学びのあしあと」を取り入れる。それらについて、以下に基本的な考え方を説明する。



図1 学びのあしあと

(1)「相互交流活動」とは

相互交流活動とは、お互いの思いを言葉や文章によってやりとりする双方向の交流のことである。自分の思いを持ちそれを相手に伝え、相手の思いを聞いては、さらに自分の思いを高めていくという新たな価値を生み出すことをねらった活動である。本研究では、3人組で行う場合とポスターセッション型で行う「自分を語ろう会」がある。形態は違うがどちらも交流しあうことを通して、それまでの考えを変容させ新たな価値(自己の理解を深める)を生み出していけるものとする。

(2)「学びのあしあと」とは

「学びのあしあと」は、学習計画やワークシート・自己評価・振り返りの記述を蓄積していくポートフォリオである(図1)。「学びのあしあと」に掲載した学習計画(表1)は、以下の学習過程に基づいて構成した。

学習過程

- 1) 「自分」に関心をもつ過程
- 2) 「自分」について考える過程
- 3) 「自分」を客観的に見つめる過程
- 4) 「自分」に対する見方を広げる過程

このように学習過程を設定することで、卒業という人生の節目を迎える児童に対して、単に楽しかった行事の思い出を語るというだけでなく、スピーチに至る学習活動の中で自己の成長や変容を感じ取らせ、自己の理解能力を段階的に高めていけると考える。具体的には、以下のような児童の姿を想定した。

過程	今日の学習
「自分」に関心をもつ	1 「今、わたしは、ぼくは」を読み、「聞く人の心に届くスピーチ」にするにはどうしたらよいかを話し合う。 ワークシート1
	2 ふたりシリーズやエッセイを読んで、自分自身のよさや特徴を考える。 ワークシート2
「自分」について考える	「聞く人の心に届く」スピーチにするために、「伝えたい自分」を決め、エピソードを集める。 ワークシート3
	「聞く人の心に届く」スピーチにするために、伝えたいことをグループで発表し合う。

表1 学びのあしあとに掲載した学習過程 (一部抜粋)

学習過程	自己の理解能力が高まった姿
「自分」に関心をもつ	教材文や模範スピーチのCDには、積極的に前向きに自分を語る人物が登場する。このようなスピーチに初めて接した児童は驚きや感動を抱くことだろう。このとき、自分もスピーチをしてみたいと意欲をもつ姿を「自分」に関心をもった姿と捉える。
「自分」について考える	物語の主人公の様子や性格などを読み取る。児童は自分と主人公を対比させ、共通点や相違点があることに気づく。この活動の中で、改めて「自分は・・・」と問うことのおもしろさや気づかなかった自分を発見するおもしろさを感じるだろう。このようにして自分のよさや特徴、関係するエピソードなどを書き表すために思考することを、「自分」について考える姿と捉える。
「自分」を客観的に見つめる	「自分を語ろう会」に向けて、語る「自分」についての題材を選び、スピーチの構成を練る。長所も欠点もある中から友だちに聞いて欲しい、知って欲しい「自分」を選ぶことは、自分の内側にあったものを表出するための行為であり、聞いた相手がどう思うかを意識せざるを得ない。相手意識をもって語るための「自分」を整理することを、「自分」を客観的に見つめる姿と捉える。
「自分」に対する見方を広げる	「自分を語ろう会」は授業参観日に行く。語った「自分」に対して、親や友だちから意見をもらう。その中で、語った「自分」に自信をもったり、さらに違った自分を知ったりする。このような姿を「自分」に対する見方を広げた姿と捉える。

「学びのあしあと」は、各児童が個々に取り組むものであり、学習過程ごとのワークシートにその時の自分の考えや意見の交流のメモなどがすべて蓄積されていくので、音声言語による相互交流活動を補うものでもある。「学びのあしあと」を用いることによって、次のような効果が期待できる。

スピーチ作りを始める前の「初めの自分」とスピーチが完成した時の「終わりの自分」を比較することによって、児童自身が自己の変容を視覚的に見つけ、捉えることができる。

学習過程ごとに振り返りを記述することによって、自己理解が深まっていき、そのことを児童自身が実感できる。

振り返りの記述に対して教師がコメントを書き入れることによって、児童が自己肯定感を深めていくことも期待できる。

2 研究の仮説

6年生国語科「今、わたしは、ぼくは」におけるスピーチ作りにより自己の理解能力を高める工夫を取り入れ、児童が「自分」を深く見つめたスピーチを発表することができれば、国語科でキャリア教育を行う上で有効な工夫であることが明らかになるであろう。

3 検証計画

6年生国語科「今、わたしは、ぼくは」の授業実践を行い、自己の理解能力を高める工夫が、国語の教材をキャリア教育の視点で行う上で有効であるかどうかを検証する。

検証方法

スピーチ作りにおいて、「自分」を深く見つめられたかを検証するために4人の児童を抽出し、「学びのあしあと」から、学習過程ごとの変容を1 - (2)「自己の理解能力が高まった姿」と照らし合わせて分析する。検証の場面は、【検証1】【検証2】【検証3】として、実践の経過の表中に示す。

実践の経過と考察

1 実践の経過

スピーチ作りは「小学校生活を振り返り、いちばん伝えたい自分の思いを聞く人の心に届くようにスピーチする。」ことを学習目標として、以下のような指導計画で授業実践を行った。

評価項目 関 : 関心・意欲・態度 話 : 話すこと・聞くこと 言 : 言語事項

過程	時間	主な学習活動	指導上の留意点	評価項目(評価方法)
自分に関心をもつ	1	教材文を読んだり、模範スピーチのCDを聞いたりして、「聞く人の心に届く」とはどのようなことかを話し合う。	教科書の「たいせつ」の箇所を参考に、「聞く人の心に届くスピーチ」とは具体的にどのようなものかを話し合いとらえさせる。 「たいせつ」に基づいて「スピーチのめあて」を作成し、児童に学習のめあてとして提示する。 学びのあしあとの使い方を説明する。	関 聞く人の心に届くようにスピーチすることに関心をもっている。 (観察・学びのあしあと) 話 「聞く人の心に届く」とはどのようなことかについて話し合い、スピーチのイメージをつかむ。(ワークシート1)
自分	2	物語やエッセイを読み、自分と比較	物語やエッセイの主人公達の様子と自分を比較しながら自分のよさや特徴	関 「聞く人の心に届く」ことを意識して、自分のよさや特徴

について考える	し、自分の特徴を考える。	<p>を見つけさせていく。 見つけた自分のよさや特徴をワークシート2に記述することによって、児童は「自分」について深く考えていけると捉える。</p>	<p>を見つけようとしている。 (観察・学びのあしあと) 話 自分のよさや特徴を主人公達の様子と比べて見つけている。(ワークシート2・学びのあしあと)</p>
	<p>3 「聞く人の心に届く」スピーチにするために、自分自身のエピソードなど材料集めをする。 【検証1】</p>	<p>「伝えたい自分」が明確に、印象深く伝わるように、自分自身のエピソードなど材料集めをする。 各自が集めた話題や材料についてグループ内で発表し、意見を交流し合い、新たに気づいた自分の特徴は、付箋紙に書きワークシート3に添付させる。</p>	<p>話 「聞く人の心に届く」ことを意識して、「伝えたい自分」やエピソードを集めたり選んだりしている。 (観察・ワークシート3・学びのあしあと)</p>
自分を客観的に見つめる	<p>5 スピーチの構成を考える。</p> <p>6 スピーチの原稿を書き、発表練習する。</p> <p>7 グループで中間発表会をする。 【検証2】</p>	<p>ワークシート3に集めた材料から、「伝えたい自分」を語るのにふさわしい材料を3つ選ばせる。 スピーチの構成は、初め・中・結びとし、教科書の例を参考にしながら自分の意図や思いがはっきり分かるようにワークシート4に記述させる。</p> <p>ワークシート4のメモを、実際にスピーチする言葉にして原稿を書かせる。 聞き取りやすさの点から、1文を短くしたり、文と文のつながり、段落相互の関係などを工夫させる。 「スピーチのめあて」と照らし合わせ練習させる。</p> <p>中間発表会は、学級で一斉に行うことから、声の聞き取りやすい3人グループで行う。 「スピーチのめあて」と照らし合わせながら、お互いのスピーチを聞き合い、スピーチの改善点が明らかになるような意見の交流を行わせる。</p>	<p>話 「聞く人の心に届く」ことを意識して、スピーチの構成を考えている。 (ワークシート4・学びのあしあと)</p> <p>話 「聞く人の心に届く」ことを意識して、スピーチの原稿を書いている。 (ワークシート5・学びのあしあと) 言 スピーチの場にふさわしい言葉遣いを用いている。 (ワークシート5)</p> <p>話 グループの友だちに向かって中間発表を行い、スピーチの改善点に気づく。 (観察・ワークシート6) 話 スピーチする人の意図や思いを考えながら聞いている。 (観察・学びのあしあと)</p>
自分に対	<p>8 「自分を語るう会」の準備をする。</p>	<p>中間発表会で見つけた改善点に基づいて自己のスピーチ原稿を推敲させる。 原稿を見ずに言えるよう、また、目線や身振りなども加えてスピーチの練</p>	<p>話 「聞く人の心に届く」ことを意識して、スピーチの構成を見直したり、発声や表情、身振りなど工夫している。</p>

する 見 方 を 広 げ る			習を行わせる。	(観察・学びのあしあと)
	9	「聞く人の心に届く」ことを意識して、「自分を語ろう会」でスピーチを行う。 【検証3】	「自分を語ろう会」は授業参観日に行う。保護者を含めた聞き手には、スピーチを聞いた感想を付箋に記述してもらい、それにより発表者が自分の見方を広げることに役立てるようにする。発表者と聞き手を時間で交代して、ポスターセッション方式で行う。	話 「聞く人の心に届く」ことを意識してスピーチをしている。(ワークシート7・学びのあしあと) 話 スピーチする人の意図や思いを考えながら聞いている。(ワークシート7・学びのあしあと)

2 結果と考察

本研究に当たって、「自分」を深く見つめさせたい4人の児童を抽出した。以下に詳しい抽出の意図を示す。

抽出児	日常の様子	抽出した意図
A子 (女)		何事にもそつなく、真面目に取り組んではいるが、A子が1番頑張っていることを話題にしないということから、まだまだ自分を出せていないと思われる。A子が本当に伝えたい思いは何かに気づいて行く過程を見取っていききたい。
B子 (女)		相互交流活動の3人組の班長に抜擢した。B子の内面にある思いを他者に向けて積極的に表現する活動に取り組ませたいと考えたからである。スピーチ作りの過程で自己を表現し、自信を付けていく様子を見取っていききたい。
C子 (女)		明るく屈託がないが、何事にも表面的なC子が、スピーチ作りによって自己の内面を見つめ、自分自身を深く考える過程を見取っていききたい。
D男 (男)		自分だけではなかなか見つけられない自分のよさや特徴を、他者とのかわりの中で見つけられることを期待している。スピーチを作り上げていく過程でどのように自分に気づいていくかを見取っていききたい。

(1)【検証1】の考察

スピーチ作りのために、児童は自分自身のエピソードなど材料集めをした。各自で材料集めをし3人の班で相互交流活動を行った後、その時の振り返りを「学びのあしあと」に記述した。この学習活動の前後で、抽出児は以下のような変容が見られた。

抽出児	材料集めの相互交流活動の前	材料集めの相互交流活動の後
A子	那須正幹氏のエッセイを読み、スピーチの題材を「将来の夢」にしようかと迷ったが、今夢中になっている空手にすると決めた。	集めた材料について相互交流活動を3人の班で行ったところ、自分の考えに対して2人から「早くスピーチを聞いてみたい」や「感情がこもっていて聞いている人を引きつける」など肯定的な意見をもらった。その後の感想には、「2人の考えることはおもしろい。空手とのかかわりを考えていたら、すっごく泣きたくなった」という感想を書いた。
B子	材料集めの相互交流活動をする直前まで、スピーチの題材をバレーボールにしようとしていた。しかし、いざそれについてエピソードを探すと見つからない。そこで、もう一度これまでの「学びのあしあと」を見直して、自分の長所・短所についてを題材とした。この題材にしたところ、次から次へとエピソードが湧いてきた。	「自分の長所・短所」について十分にエピソードを書いてない状態で、3人組での相互交流活動を行った。しかし、話し相手の2人からは「よくわかった」「そのエピソードでいいと思う」などの肯定的な意見をもらったり、「エピソード5をもっと詳しく。」のようなアドバイスをもらったりした。その結果、B子は、「エピソードの1つ1つに、その時思った気持ちを入れるとよく伝わる。」と自ら改善策をワークシートに書き入れた。
C子	母親の職業である美容師は、身近ではあるが、特別将来の夢とは考えていない。交流前のスピーチの材料集めでは、「これでいいか分からないけどとりあえず出来た」と感想を書いた。	相互交流活動で2人から「C子さんはキャリアがしっかりしている」「夢に向かって頑張れ」などの励ましや「エピソードについてもう少し詳しくするといいと思う」という意見を得た。その後、幼いころの美容師になりたくなったきっかけや母親の職業にかける熱意や苦労などまでスピーチの材料として書き加えた。
D男	D男は、那須正幹氏のエッセイを読んだとき「ぼくは1年生のころには将来の夢があったのに4年5年6年になるとしだいに将来の夢がなくなった」と、落胆した様子の感想を書いた。また、自分のプロフィールにも「自分には特徴がない」「長所ふ	相互交流活動では、ゆっくりではあったが、2年生のころからのバスケットボールへのかかわりを2人に向かって話した。2人が熱心に聞いてくれ「なぜバスケットに夢中なのかがよく分かった」や「どんどん強くなってね。」など、励ましの意見をもらった。交流後の感想には「み

<p>つう、短所ふつう」と書いた。日ごろの様子から、バスケットボールが好きそうだったので、スピーチの題材として「自分の好きなこと、バスケットボールにしたらどうか」とすすめてみた。</p>	<p>んなもよく書けていた」と書いた。自分自身の頑張りに気づいた様子だった。</p>
---	--

A子は、大好きな空手についてのエピソードを考えているうちに「泣きたくなった」と書いた。また、B子は、「エピソードの1つ1つにその時思った気持ちを入れるとよく伝わる。」と自ら改善点を書いた。「とりあえず美容師」としたC子は、この活動の後、自分が美容師になりたいのはなぜかをもう一度自分に問い直した。そして、自分のことを考えるのを避けていたD男は、この活動を通して「自分について考えること」への意欲をもつようになった。このように、スピーチのための材料集めを行い、3人組で相互交流活動することによって、「自分」について考えることのおもしろさや驚きを感じたり、意欲をもつようになったりしたことから、児童は「自分」について考えているといえる。



図2 3人組の相互交流活動

(2) [検証2]の考察

ほぼできあがったスピーチの中間発表を行った。これまで材料集めから意見を交流し合ってきた3人の班の中で発表し、それについて再び相互交流活動を行った。スピーチの原稿を書き中間発表を行うまでの学習活動の前後で、抽出児は以下のような変容が見られた。

抽出児	中間発表の前	中間発表の後
A子	<p>スピーチ原稿が仕上がったとき、A子は「お母さんにじかで言ったら恥ずかしいことを書いてしまった。」と少々後悔していた。しかし、母親に何か伝えたいことがあるという様子がこの文面からうかがえる。</p>	<p>中間発表の前はかなり発表練習をしたおかげで、原稿を見ずに言えるくらいにま でなっていた。同じ班の友人から、「お母さんのことはエピソードとしていいと思う。」という肯定的な意見をもらい、原稿内容に自信をもった様子であった。</p>
B子	<p>B子は、初めの部分がなかなか決まらず、スピーチ原稿の作成に手間取った。しかし、これまでの「学びのあしあと」の記述を読み直し、これまでは「自分には長所などない」と思っていたときの気持ち素直に見つめ、スピーチの初めの部分に表現した。中間発表前には原稿を仕上げ、「ちゃんと考えて書けた」と、原稿に対する自信がうかがえた。</p>	<p>中間発表会では、班長であったB子は司会者としても活躍した。B子の司会のおかげで、それぞれがお互いに意見を出し合うことが出来た。そして、「伝えたい自分からそれないように、印象深いエピソードをさらに入れる」などの改善点を書いていることから、発表したスピーチを一層よくしようとの意欲が感じられる。</p>

C子	スピーチ原稿が仕上がったとき「よくできたと思う」と、感想を書いた。その言葉通り、C子はスピーチ原稿の材料に関するエピソードをじっくりと考え、原稿が大変充実してきた。	中間発表を、聞いてくれた2人からは、ほとんどの評価をもらった。C子自身も話し方についてはまだ不十分ではあるが、内容については大いに満足した様子だった。話し方をさらに練習して本番に臨む意欲が授業後の感想に記されていた。
D男	D男は、材料集めの相互交流活動の後修正したスピーチメモをもとに、スピーチ原稿を作成した。2年生から6年生になるまでのバスケットに関するエピソードも充実し、初め・結びもしっかり書け、大変意欲的に取り組んだ。「うまく書けました。本番に向けてがんばる」と、感想に書いた。	中間発表の後、スピーチの改善点として「バスケの練習のことをもっと言う」「もっと大きな声で言う」「明るい表情で言う」と書いた。また、授業後の感想には「友だちにアドバイスをもらい工夫する」と、スピーチをもっとよくしていこうとする意欲が感じられる記述を残した。

A子は、空手が大好きでこの題材にしたが、材料を集めエピソードを探していくうち自分と母親とのかかわりに気づいてきた。しかし、このことを発表しようか迷っていたところ、班の友だちの応援でスピーチに入れ、スピーチは内容的にもよくなった。B子の様子からは、初めて「自分の長所」をじっくり考えてみたら、次から次へと長所が見つかり、驚きと感動が感じられた。また、C子は「エピソードを詳しくするといい」というアドバイス通りに行ったところ、スピーチの中身が充実し、仕上がったスピーチ原稿に大変な自信が感じられた。D男も、エピソードを詳しくしたことでスピーチ原稿に自信を持つことができた。このように、スピーチの材料に対してエピソードを集め、発表原稿にしていくという学習活動は、4人の抽出児にとって「自分」をじっくり見つめ、見つけた「自分」を相手にどう語るかを整理することであり、「自分」を客観的に見つめている姿であるといえる。



図3 中間発表会

(3)【検証3】の考察

「自分を語ろう会」は、授業参観日に行った。参観した保護者や3人の班のメンバー以外の児童がスピーチを聞き、その後発表者に感想メモを渡した。

抽出児	「自分を語ろう会」の前	「自分を語ろう会」の後
A子	中間発表の後、A子は自分にとって空手とは何なのかを改めて考え、「空手とのかかわりを考えていたら泣きたくなった。」と記述した。A子は、空手のことを原稿に書いていたつもりがいつの間にか空手	A子は「私は本当にお母さんが好きなんだなぁと思った。空手のことなのに、お母さんが出てきちゃったし。話すときも、お母さんばかり見てた。(中略)みんなの一言一言で私は変わっていったんだなぁって思った。」と記述し

	だけでなく空手を通して母親との かかわりが重要であったことに気 づくなど、自分の思いを固めてい った様子うかがわれる。	た。
B子	B子は、中間発表後の相互交流活 動でおおむね認められながらも、 ワークシートに自ら「エピソード の1つ1つにその時思った気持ち を入れるとよく伝わる。」と添え 書きをし、スピーチに修正を加え た。	B子は、「私はこの勉強をする前は、 自分のことをこんなに真剣に考え たことはありませんでした。前より 自分が好きになれた気がします。 この勉強をしなければ自分のいい ところも悪いところも知らずに 関心を持たなかったと思います。」 と記述した。
C子	C子は、母親が美容師だからとい う安易な理由で、将来は美容師に なるととりあえず書いていたが、 これまでのスピーチ作りの中で、 幼いころの母親とのやりとりや母 親の職業に対する熱意などにも気 づくきそれらをスピーチの材料と して付け足した。	C子は「まず初めに思ったのは、この 学習をやって本当によかったとい うことです。本当の自分、友だち のことがとてもよく分かりまし た。」と書いた。
D男	中間発表の後、スピーチにいくつ も改善を加えた。これまでのD男 の学習態度の中では、自分から改 善点を見つけ克服しようとするこ とは少なかったので、中間発表後 のD男の態度は、実に意欲的であ ると言える。	D男は、「ぼくは、この勉強をやって よかったと思います。今までは、人 に話をするのがとても苦手で人が 多いときにはなかなかうまく話せ なかつたです。でも、スピーチを するうちにだんだん人にうまく話 せるようになりました。」と書い た。D男のスピーチを聞いていた 母親は「こんなに堂々と話してい るD男を初めて見ました。」と話 した。

A子は、空手では自分が頑張っ
てよい成績を上げてきたと思っ
ていたが、その頑張りを支えて
くれたのは実は母親であったこ
とに気づき、振り返りには母
親への思いを素直に書いた。B
子は、暗い性格の自分が嫌い
だった。しかし、暗くて嫌い
と決めつけていたのは自分自
身で、よくよく自分を振り返
ってみたら長所も短所もどち
らも含めて好きといえる自分
に気づいた。「とりあえず今
は美容師になりたい」と書い
ていたC子が、自分自身のキ
ャリアに気づく過程で、母
親の職業観にも気づき「美容
師になりたい」と自信をも
って言うようになった。スピー
チに



図4 自分を語ろう会の様子

よってD男が、自信を得たこ
とは確かである。それは、単
にスピーチの練習をして上手
になったというだけではなく、
本実践の前には、自分に無関
心で「長所無し、短所無し」と
書いたD男が、バスケットが
大好きでこれからも続けてい
きたいという自分の思いに気
づく、それを多くの人に伝え
られた喜びを感じた結果だ
と言える。

このように、児童がこれまで
の自分に対する見方を広げる
上で「自分を語ろう会」(相
互交流活动)は有効である
と言える。

研究の成果と今後の課題

1 研究の成果

4人の児童が、スピーチ作りが進むごとに自己を深く見つめ、これまでの自己の見方から違った自己を発見していった様子が分かる。このことから、相互交流活動や「学びのあしあと」の活用は、自己の理解能力の育成に有効であったと言える。他者と意見を交流することで一層自分についての理解が深まったといえる。

「学びのあしあと」には、スピーチ作りに伴ってワークシートと相互交流活動で得た意見のメモが蓄積されていった。児童は、それらを見ながら初めのころや途中の自分の考えと比べることにより、自ら自己の変容を感じ取り、自己肯定感をもちようになっていった。

自分を語ろう会以外の相互交流活動は、決まった3人組で行った。3人という少人数であるため児童は自分の考えを安心して言うことができるし、距離が近いのでお互いの声が聞き取りやすく、よく聞いてもらえるという安心感ももった。相互交流活動を行う上で、3人という人数は適していると言える。

2 今後の課題

相互交流活動や「学びのあしあと」を利用して、他の教科でもキャリア教育を実践していきたい。

相互交流活動を円滑に活発に行える学級は、児童が生き生きと育っていると言えるだろう。相互交流活動を核とした学習活動を計画的に意図的に実践していくことは学級作りに役立つものと考え、今後も年間を通して実践していきたい。

終わりに

小学校は、学級担任制が基本である。朝、登校した時点から授業中はもとより、休み時間や給食・清掃時間に至るまで、児童の学校での生活を学級担任は掌握している。このことは、児童のキャリア発達をきめ細かく見取る上で大変な強みだと思う。小学校の教師がこのことを意識して、多くの時間を当てる教科の授業の中でもキャリア教育の実践を行おうとするならば、大きな成果が上がると思う。本研究が小学校のキャリア教育の幅広い実践に役立てば幸いである。

参考文献

キャリア教育の推進に関する総合的調査研究協力者会議

報告書～児童生徒一人一人の勤労観、職業観を高めるために～ 文部科学省(2004)

小学校・中学校・高等学校 キャリア教育推進の手引き 平成18年文部科学省

小学校指導要領解説(総則編・国語編):平成11年文部省

「伝え合う力」を豊にする自己発見学習 明治図書 井上一郎著(2003)

国語で育てる相互交流能力 小学校編 明治図書

松村賢一・花田修一・若林富男編著

平成18・19年度 邑楽町立長柄小学校研究紀要